

お老~い、したくはできたかい？

みんなで考える「老いじたく」(7)

■男性の介護■

「妻が脳出血で倒れて20年になります」こんなハガキを下さった読者のHさん(66)の場合。

介護者の3人に1人が男性

母親の車イスをおす息子、妻を介護する夫：男性の介護は、珍しくありません。介護者の三人に一人が男性で、一〇〇万人ともいわれています(厚生労働省調査・2007年)。

しかし男性の介護には女性以上の困難が。料理などの家事に慣れていなかったり、一家の稼ぎ手の場合が多いため、仕事との両立や収入への影響が深刻だからです。

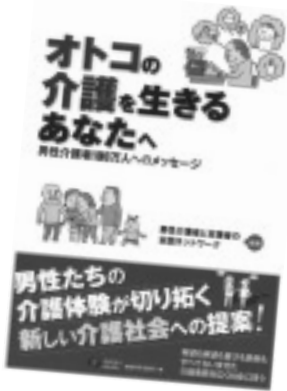
40代で妻が倒れた

Hさんの奥さんは、五〇歳を前に、介護が必要な状態になりました。脳出血で二度、倒れたことが原因です。

半身マヒと嚙^え下^げ障害のため、いまは「胃ろう」^注を設置しています。家の中の伝い歩きはできませんが、転倒すると起きあがれないため、ひとりにはで

◇こんな本も出ています。

男性介護者と支援者の全国ネットワーク編
(発行・クリエイティブかもがわ)



「介護に直面して困ったこと！」
「苦しいことばかりじゃない」
「男性介護を支えるグループ」など…

きません。外出は車イス。介助や家事はHさんの肩にかかっています。

(注)胃ろう：腹部から胃に小さな穴を通して、直接胃に栄養を入れる。口から食事がとれなかったり、とれてもむせて肺炎などを起こしやすい人の栄養補給法のひとつ。

慣れない家事

【料理】包丁を握れなくなった奥さんに代わって、早い段階でHさんが料理をすることに。食卓に卓上コンロを置き、かたわらに座った奥さんの指示で、Hさんが切る、煮るなどの作業をします。

「僕らの学生時代は男子生徒に家庭科の授業がなかったですから、料理経験のない同世代の男性は苦労するでしょう。妻も元気なころは『男子厨房に入らず』という人でした」とHさん。

【買い物】食料などは問題ありませんが、女性ものの下着の購入は、さすがに抵抗がありました。売り場に足を踏み入れること自体「どうしよう」と。そこで最初に店員さんに「妻の具合が悪くて」と声をかけ、売り場に案内してもらいました。これで堂々と目的が果たせました。

掃除や片づけは、「散らかっているように見えても、必要なものが使いやすいようにあればいい」という発想。カンペキは目指しません。

ほっと介護

97

仕事・家計は

仕事は？ Hさんは、タクシー運転手に転職していたので、自由がききました。奥さんの具合が悪くなれば、車を「回送」にして帰宅、休む必要があれば、休みを振りかえてしのぎました。

しかしそのかけもち生活も、奥さんが夜間に外に出してしまうなど、目が離せなくなると難しくなり、昨年、仕事を辞めました。働けないことは、収入が途絶えることも意味します。生活介護を受けることになりました。

この時相談した民医連の病院で、介護保険をすすめられました。奥さんの介護度は二番目に重い「4」。訪問看護やデイサービスを使って「新しい発見があった」とHさん。「妻の介護は『苦労ではない』と思っていました、手助けがあると楽なんです」

いま、Hさんは就職支援制度を使って介護ヘルパーの職業訓練を受けています。「他の方の手助けをしている間、妻は介護保険で見てもらいたい。四六時中、ずっと二人でいるより、楽しく介護できるように思うんですわ」

(編集部)